

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東京都市大学
設置者名	学校法人 五島育英会

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
工学部	機械工学科	夜・通信	0	0	20	20	13	
	機械システム工学科	夜・通信			38	38	13	
	電気電子通信工学科	夜・通信			14	14	13	
	医用工学科	夜・通信			24	24	13	
	エネルギー化学科	夜・通信			16	16	13	
	原子力安全工学科	夜・通信			18	18	13	
	建築学科	夜・通信			38	38	13	
	都市工学科	夜・通信			30	30	13	
知識工学部	情報科学科	夜・通信	0	0	13	13	13	
	情報通信工学科	夜・通信			37	37	13	
	知能情報工学科	夜・通信			24	24	13	
	自然科学科	夜・通信			33	33	13	
環境学部	環境創生学科	夜・通信	0	12	32	44	13	
	環境経営システム学科	夜・通信	0	6	10	16	13	
メディア情報学部	社会メディア学科	夜・通信	0	8	16	24	13	

データ情報学部	情報システム学科	夜・通信	0	10	40	50	13	
都市生活学部	都市生活学科	夜・通信	0	0	47	47	13	
人間科学部	児童学科	夜・通信	0	0	24	24	13	
<p>(備考) 電気電子通信工学科は教育課程の変更の途上であるため、1年は新課程、2～4年は旧課程にて計上。 情報通信工学科は学生募集停止しているが、在学生在籍中。</p>								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

インターネットにより公表
<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京都市大学
設置者名	学校法人 五島育英会

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人五島育英会ホームページにて公表 https://www.goto-ikuei.ac.jp/10hojin/officer.html
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	無職	2018年5月27日～2021年5月26日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	東京急行電鉄株式会社代表取締役 副社長執行役員	2018年5月27日～2021年5月26日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	東急不動産ホールディングス株式会社 代表取締役 会長	2018年5月27日～2021年5月26日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	学校法人 聖心学園理事長 東京急行電鉄株式会社 相談役	2018年5月27日～2021年5月26日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	東京都市大学校友会会長	2018年5月27日～2021年5月26日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	東京都市大学校友会副会長	2018年5月27日～2021年5月26日	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京都市大学
設置者名	学校法人 五島育英会

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 前年度中に科目担当者がシラバスを作成する。その後、科目担当者以外の第三者が、記載内容が適正であるかをチェックした上で、前年度の 3 月 31 日までにシラバスを予め公表している。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/academics/syllabus/ ※「シラバスメニュー」より検索、ID・パスワード不要</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 科目担当者が授業科目の特性に応じた成績評価の方法をシラバスに記載している。これにより、学生に対して予め、成績評価の方法を示している。当該方法に基づいた素点(100点満点法)が60点以上の場合に、単位を認定している。 なお、成績評価の基準は、学修要覧に掲載している履修要綱において定めている。59点以下が「不可」、60～69点が「可」、70～79点が「良」、80～89点が「優」、90～100点が「秀」である。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
 以下のとおり、成績評価において、予め客観的な指標を設定し、数値を算出している。
 算出された数値は、退学勧告の基準として用いている。

【2018年度以降入学生対象】

客観的な指標は、f-GPA (ファンクショナル・グレード・ポイント・アベレージ) 方式により算定する。算出方法は、以下のとおり。

$$\frac{\text{(履修した各科目の GP} \times \text{単位数) の合計}}{\text{履 修 単 位 数}}$$

※GP = (科目の得点 - 55) / 10

ただし、科目の得点が 60 点未満の場合、GP は 0 とする。

- (1) 評定値算出対象科目は「卒業要件対象科目」とする (卒業要件非加算の単位数は含めない)。
- (2) 評定値算出には不合格科目も対象とする。
- (3) 不合格科目を再履修した場合は、分母の履修単位数の変更はせずに、分子のみ最新評価結果に変更して算出する。
- (4) 前期終了時に評定値を算出する場合、当該年度に履修中の通年科目については、分母 (履修単位数) に含めない。

【2017年度以前入学生対象】

客観的な指標は、GPA (グレード・ポイント・アベレージ) 方式により算定する。算出方法は、以下のとおり。

$$\frac{\text{(秀の科目単位数} \times 4) + \text{(優} \times 3) + \text{(良} \times 2) + \text{(可} \times 1) + \text{(不可} \times 0)}{\text{履 修 単 位 数}}$$

- (1) 評価値算出対象科目は「卒業要件対象科目」とする (卒業要件非加算の単位数は含めない)。
- (2) 評定値算出には不合格科目も対象とする。
- (3) 不合格科目を再履修した場合は、分母の履修単位数の変更はせずに、分子のみ最新評価結果に変更して算出する。
- (4) 前期終了時に評定値を算出する場合、当該年度に履修中の通年科目については、分母 (履修単位数) に含めない。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

インターネットにより公表
<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>
 全学生に配付している学修要覧に掲載

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【卒業の認定に関する方針の具体的な内容】

■大学

東京都市大学は、本学の教育理念に基づき、所定の単位を取得し、以下の知識・能力等を修得した学生に対して卒業を認定し、学士の学位を授与する。

(自ら学ぶ力)

1. 主体的・自律的に学び、自己研鑽できる。

(課題を探究する力)

2. 「都市」に集約されるような複合的な課題に対してグローバルかつ未来志向の視点で取り組むことができる。

(ボーダーを超える力)

3. 多種多様なボーダーを超えて知識や考え方を共有し、新たな価値を見出すことができる。

(協働する力)

4. 公正・誠実に多様な人々と向き合い、柔軟に粘り強く協働することができる。

(実践する力)

5. 人類文化と社会を理解し、基礎的および専門的な知識とスキルを身につけ、それらを総合して持続可能な社会の発展に貢献することができる。

■工学部

所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得した者に、学士(工学)の学位を与える。

1. 社会の発展に貢献する社会人としての、豊かな教養と人間性を修得している。

2. 工学全般に必要な基礎学力と、学科の分野に対応する十分な専門知識を修得している。

3. 現実に即した発想のもとに、理論的裏付けを持った実践によって、社会の要請に対応できる能力を修得している。

■知識工学部

所定の年限在学し、以下の能力とともに所定の単位数を修得した者に、学士(工学)の学位を与える。

1. 科学と工学を体系的に理解すると共に、幅広い教養を有し、課題に対してその本質に立ち戻って解決する能力を修得している。

2. 各学科の専門分野での教育を通じて、修得した知識を総合的に活用できる能力、および関連する新しい知識を生涯にわたり探求する能力を修得している。

■環境学部

所定の年限在学し、以下の能力を身に着けるとともに所定の単位数を修得した者に、学士(環境学)の学位を与える。

1. 地域から地球規模に至るまで、人類が直面する環境問題に対して、科学的な調査、分析及び評価ができ、解決方法を構想することができる能力を修得している。

2. 環境に対する高い倫理観をもって、社会の持続可能な発展に貢献することができる能力を身に着けている。

3. 環境に関連する幅広い教養と学識を身に付け、異なる文化や価値観を持つ人々とのコミュニケーションができる能力を身に付けている。

■メディア情報学部

所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、社会メディア学科においては学士（社会情報学）、情報システム学科においては学士（情報学）の学位を与える。

1. 各学科が設定した専門分野と関連領域について学習し、情報と社会に係る事象について自然科学・社会科学両面から研究する力を修得している。
2. 情報と社会に関連する幅広い教養を身につけ、異なる文化や価値観を持つ人々とコミュニケーションする力を修得している。
3. 社会・人間環境や情報環境に関して、現状やニーズを調査・分析、評価する能力、および課題解決に向けた提案やシステム構築のための基礎知識を持ち、その実現のためのコミュニケーション力、マネジメント力を修得している。

■都市生活学部

所定の年限在学し、以下の能力とともに所定の単位を修得した者に、学士（都市生活学）の学位を与える。

1. 社会を見通す広い教養と、国際的な場で活躍できるコミュニケーション能力を有し、責任ある社会人として活躍できる基礎能力を修得している。
2. 社会科学的な方法論と芸術・工学的な方法論を複合的に習得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を修得している。
3. 都市に関する総合的・横断的な知識と、特定領域の深い専門知識を持ち、それらを応用して都市生活の価値創造に寄与する構想力および実践力を修得している。

■人間科学部

所定の年限在学し、以下の能力とともに所定の単位数を修得した者に、学士（児童学）の学位を与える。

1. 豊かな人間性に根差した学際的教養と、「知」の基盤となる横断的基礎知識、児童の教育・保育および子育て支援の分野に関する専門的知識や技術を修得している。
2. 「体験型プログラム」を通して、豊かな自己表現力とコミュニケーション力を身に付け、「理論」と「実践」を総合的に応用することができる。
3. 児童学分野における真理探究のための主体的な学びから、柔軟な思考力、課題探究能力および問題解決力を修得している。
4. グローバルな視点から物事を考え、現代的課題に対応しうる倫理観および社会的責任を修得している。

【卒業の認定に関する方針の適切な実施状況】

卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数を踏まえ、各学部教授会で卒業を認定している。

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

インターネットにより公表
<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東京都市大学
設置者名	学校法人 五島育英会

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	インターネットにより公表 https://www.goto-ikuei.ac.jp/10hojin/20data/
収支計算書又は損益計算書	インターネットにより公表 https://www.goto-ikuei.ac.jp/10hojin/20data/
財産目録	インターネットにより公表 https://www.goto-ikuei.ac.jp/10hojin/20data/
事業報告書	インターネットにより公表 https://www.goto-ikuei.ac.jp/10hojin/20data/
監事による監査報告(書)	インターネットにより公表 https://www.goto-ikuei.ac.jp/10hojin/20data/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画書)	対象年度:2019年度)
公表方法:インターネットにより公表 https://www.goto-ikuei.ac.jp/10hojin/20data/2019jigyokeikaku.pdf	
中長期計画(名称:東京都市大学アクションプラン2030 対象年度:2030年まで)	
公表方法:インターネットにより公表 http://tcu-actionplan.jp/	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/programs/selfinspection/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/programs/selfinspection/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部
教育研究上の目的 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/) (概要) 「理論と実践」という教育理念に基づき、現実に即した発想のもとに理論的裏付けを持った実践によって、社会の要請に対応できる技術的能力を備えた人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/) (概要) 所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。 1. 社会の発展に貢献する社会人としての、豊かな教養と人間性を修得している。 2. 工学全般に必要な基礎学力と、学科の分野に対応する十分な専門知識を修得している。 3. 現実に即した発想のもとに、理論的裏付けを持った実践によって、社会の要請に対応できる能力を修得している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/) (概要) 工学部では、「理論と実践」という学部の教育理念に基づき、理論的な裏付けに基づいた発想により、現実の問題を解決する実践能力を有する人材を育成する。そのために、下記の教育課程を編成する。 1. 幅広い教養と国際的コミュニケーション能力を修得し、それを支える心身を鍛錬するために、「教養科目」・「外国語科目」・「体育科目」を配置する。 2. 工学全般に共通する知識・能力（実行、思考、協働など）・倫理観、および、深い専門的知識・能力を修得するために、「工学基礎科目」と「専門科目」を体系的に配置する。 3. 技術者として仕事を遂行する基礎力、実社会での課題を探究する能力、および実社会の複合的な問題を解決する能力を修得するために、「卒業研究」などを配置する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/) (概要) 【人材の養成及び教育研究上の目的】 技術革新のための“ものづくり”では、アイデアを具体化するための“理論”を駆使し“もの”として形づくる“実践”を行うことが重要である。工学部では「理論と実践」という教育理念に基づき、社会の要請に対応できる技術的能力を備えた人材を養成することを目的としている。 【求める人物像】 ・それぞれの工学分野に強い関心を持ち、未知の課題に取り組む意欲がある人 ・工学を学び、専門知識と実践する力を身に付けることを目指す人

- ・高等学校で学習する内容をよく理解して、工学を学ぶために必要な基礎学力を備えている人
- ・工学と社会の関わりについて考えることができ、社会の持続的発展に貢献する志を持つ人

【高校での学習について】

工学部での学修を無理なく進めるために、高等学校では次の科目を履修していることが望まれる。

- ・数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B）
- ・理科（物理基礎、化学基礎、物理、化学）
- ・コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ

学部等名 知識工学部
<p>教育研究上の目的 （公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/）</p> <p>（概要） 21世紀の知識基盤社会において、高度な科学技術知識を有し、これらを総合的に活用できる人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 （公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/）</p> <p>（概要） 所定の年限在学し、以下の能力とともに所定の単位数を修得した者に、学士(工学)の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学と工学を体系的に理解すると共に、幅広い教養を有し、課題に対してその本質に立ち戻って解決する能力を修得している。 2. 各学科の専門分野での教育を通じて、修得した知識を総合的に活用できる能力、および関連する新しい知識を生涯にわたり探求する能力を修得している。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/）</p> <p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度な科学技術の知識を総合的に修得し、これを国際的な知識基盤社会で活用できるようにするため、「教養科目、体育科目、外国語科目」「知識工学基盤科目」「専門科目」を体系的に配置する。 2. 学部の教育・研究目標を、社会の多様性に応じて実現するために、学部共通の「知識工学基盤科目」内に「知識基盤系」科目群を配置し、学生のアカデミックキャリアの早期からのプランニングと実践を支援する。 3. 学生同士および学生と教員が多くの時間を共有し、相互の多様性を認めつつ連帯感を持ちながら課題・研究等に取り組む「卒業研究関連科目」群を「専門科目」内に配置することで、主体的に研究・開発を担う資質の養成と、建学の精神である「公正・自由・自治」を実践する気概を養う。
<p>入学者の受入れに関する方針 （公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/）</p>

<p>(概要)</p> <p>【人材の養成及び教育研究上の目的】 現代の“情報社会”はネットワークの高度化、ビッグデータ解析技術および人工知能(AI)等の発展により“超スマート社会”に進化しようとしている。”超スマート社会”では、情報科学の様々な専門知識を身に付けた技術者、IoTを駆使できる技術者、AI・ビッグデータ解析技術等を経営等の諸問題解決に適用できる能力を有する技術者、自然科学の本質を理解して「科学」と「社会」をつなぐ専門家が必要である。知識工学部では、これらの「知の創造」を担う人材を養成することを目的としている。</p> <p>【求める人物像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを中心とする社会において、「知の創造」への意欲をもつ人 ・数学・自然科学に対して興味と探究心を持ち基礎学力と思考力を合わせ持つ人 ・修得した知識と技能を利用して、国籍、経歴、専門等が異なる人々と確かなコミュニケーションができる人 ・“超スマート社会”の構築と発展に寄与したいという意欲を持つ人 <p>【高校での学習について】 知識工学部での学修を無理なく進めるために、高等学校において、数学、理科、英語を中心とした基礎学力を身に付けておくことが望まれる。特に、数学に対しては「数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B」を、英語に対しては「コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ」を、それぞれ履修していることが望まれる。</p>

<p>学部等名 環境学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p>
<p>(概要) 地域から地球規模に及ぶ環境問題を科学的に捉え、持続可能な自然環境や都市環境を創造し、経済システムを環境調和型に転換することによって、持続可能社会の実現に寄与することができる人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p>
<p>(概要) 所定の年限在学し、以下の能力を身に着けるとともに所定の単位数を修得した者に、学士(環境学)の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域から地球規模に至るまで、人類が直面する環境問題に対して、科学的な調査、分析及び評価ができ、解決方法を構想することができる能力を修得している。 2. 環境に対する高い倫理観をもって、社会の持続可能な発展に貢献することができる能力を身に着けている。 3. 環境に関連する幅広い教養と学識を身に付け、異なる文化や価値観を持つ人々とのコミュニケーションができる能力を身に付けている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p>

<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境に関連する幅広い視野と教養を身につけるために、外国語科目、体育科目、および社会科学・人文学・自然科学、情報処理、社会実習などに関わる科目等の教養科目を配置する。 2. 高い倫理観をもって社会の持続可能な発展を構想し、かつ環境問題を科学的に調査、分析及び評価するために、自然・人文学・社会科学における広範かつ必要な専門基礎科目を設置する。 3. 環境問題を解決する専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために、学科基盤科目と学科専門科目を設ける。学科共通の基盤科目として、数理統計系科目、分析計測系科目、環境問題と関連する科目群を配置する。また、学科の専門科目として、各専門分野に独自の専門性の高い科目群を配置する。 4. 3年次の事例研究および4年次の卒業研究を必修として設置する。学生が主体的に問題を発見し、その問題に適した理論的枠組みを作り、調査や分析を行い、問題の解決に関する論文を執筆して発表する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p>
<p>(概要)</p> <p>【人材の養成および教育研究上の目的】 環境問題の解決には、自然生態系と社会システムの間を総合的に理解し改善することが必要である。そのために、自然と調和した地域や都市の環境を創生する能力を備えた人材、経済活動の環境負荷を低減した社会システムを実現する能力を備えた人材を養成することを目的としている。</p> <p>【求める人物像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生態系の保全・復元、環境に配慮した都市環境、持続可能な社会を実現する意欲のある人 ・自然のメカニズムや環境の分析・調査に関する知識や技能を身に付けたい人 ・環境問題を理解する思考力や環境を可視化し発信する表現力を身に付けたい人 ・環境問題解決のために主体的に行動し、周囲と協働できる人 ・多様な人々と価値が共存するグローバル社会に対応する意欲のある人 <p>【高校での学習について】 環境学部での学修を無理なく進めるために、高等学校では次の科目を履修していることが望まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B） ・国語（国語総合） ・英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ）
<p>学部等名 メディア情報学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p>
<p>(概要)</p> <p>人間社会や、情報通信技術が生み出す新しい情報環境を深く理解し、より良い社会実現に向け、社会的仕組みや情報システムを調査・分析・実現、評価・改善できる人材を養成することを目的とする。</p>

<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p> <p>(概要)</p> <p>所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、社会メディア学科においては学士(社会情報学)、情報システム学科においては学士(情報学)の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各学科が設定した専門分野と関連領域について学習し、情報と社会に係る事象について自然科学・社会科学両面から研究する力を修得している。 2. 情報と社会に関連する幅広い教養を身につけ、異なる文化や価値観を持つ人々とコミュニケーションする力を修得している。 3. 社会・人間環境や情報環境に関して、現状やニーズを調査・分析、評価する能力、および課題解決に向けた提案やシステム構築のための基礎知識を持ち、その実現のためのコミュニケーション力、マネジメント力を修得している。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p> <p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報と社会に関する幅広い視野と教養を身につけるため、自然科学・社会科学両面の「教養科目」及び「体育科目」を設置し、また異なる文化や価値観の人々とのコミュニケーション能力を身につけるために「外国語科目」を設置する。 2. 情報と社会を理解し分析するにあたって必要な基礎知識や技能等を、社会科学と情報科学の視点から修得させることを目的として「専門基礎科目」を設置する。 3. 学科に係る専門的な方法論と知識を学び、また学科の専門分野に共通して修得すべき知識の学習を行って専門科目での学習の基盤を養うため「学科基盤科目」を配置する。 4. 社会・人間環境や情報環境に関する現状やニーズの調査・分析、評価、問題解決に向けて、実習や演習を重視し実践的に能力の積み上げを図るための「学科専門科目」「専門科目」を体系的に設置する。 5. 調査・分析能力及び問題解決・提言能力のさらなる涵養と、主体的に研究・開発を担う資質の育成、さらには建学の精神である「公正・自由・自治」を実践する気概を養うことを目的として、「事例研究」「卒業研究」を設定する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p> <p>(概要)</p> <p>【人材の養成および教育研究上の目的】 変化する情報・コミュニケーション環境のもとで、新たな情報社会を創り出すことを目指します。そのために情報通信技術が生み出す社会を調査、分析し、より良い生活の実現に向け、情報システムや社会の仕組みを創造し、さらに評価、改善できる人材を養成することを目的としている。</p> <p>【求める人物像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科の学修に必要な基礎的学力を身に付けている人 ・学科の研究領域に関心を持ち、情報と社会の諸問題に取り組む高い意欲がある人 ・知的好奇心が旺盛で、主体的に学修を深めることができる人 <p>【高校での学習について】 メディア情報学部での学修を無理なく進めるために、高等学校での学修について以下のことを求める（AO社会人型入試および外国人留学生入試については、必ずしもその限りではない）。</p> <p>[社会メディア学科] 次の科目を履修していることが望まれる。</p>

- ・英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ）
- ・国語（国語総合）または数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B）

[情報システム学科]

次の科目を履修していることが望まれる。

- ・英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ）
- ・数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B）

学部等名 都市生活学部
教育研究上の目的 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/) (概要) 魅力的で持続可能な都市生活の創造のため、生活者のニーズを構想・企画へと描きあげ、その実現のため事業推進、管理運営を行っていく、企画・実行業務を担う実践力のある人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/) (概要) 所定の年限在学し、以下の能力とともに所定の単位を修得した者に、学士（都市生活学）の学位を与える。 1. 社会を見通す広い教養と、国際的な場で活躍できるコミュニケーション能力を有し、責任ある社会人として活躍できる基礎能力を修得している。 2. 社会科学的方法論と芸術・工学的な方法論を複合的に習得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を修得している。 3. 都市に関する総合的・横断的な知識と、特定領域の深い専門知識を持ち、それらを応用して都市生活の価値創造に寄与する構想力および実践力を修得している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/) (概要) 1. 複雑化する都市社会の中で確かな価値を見抜く力を養うとともに、国際人として活躍できるコミュニケーション能力の獲得を目指して、社会、歴史、文化、芸術分野を幅広く含む「教養科目」と、「外国語科目」および「海外留学プログラム」を設置する。 2. 経営学的な調査分析と空間のデザインという二面の実践能力を併せ持つ人材の育成を目指して「演習科目」を設置するとともに、都市生活に関する4領域の専門知識と方法論を体系的かつ多角的に修得するために「専門基礎科目」および「専門科目」を設置する。 3. 特定領域の専門知識を深めるとともに、独創性と問題の発見力および解決力を養い、専門知識を実社会に活かす構想力と実践力を修得するため、「プロジェクト演習」および「卒業研究」を設定する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)

<p>(概要)</p> <p>【人材の養成及び教育研究上の目的】 国際化、情報化が進み、世界人口の半数以上が都市に暮らす現代、人々の生活の質を持続的に高める都市創造の学問と実践が必要である。都市を学ぶ総合的な学修環境の中で、社会科学と空間デザインの両方のスキルを幅広く習得し、都市の新時代をリードするビジネスと文化の創造力を身に付けて、企業人や専門家として国際社会で活躍できる人材を養成することを目的としている。</p> <p>【求める人物像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市生活学部の理念に共感し、「都市」に関心を持ち、将来、都市に関連する分野で活躍したいと望む人 ・商学や経営学等の社会科学系の勉学を基本にし、街並みやインテリアなどの空間デザイン、都市の文化・芸術など、幅広い分野に興味を抱き、好奇心旺盛な人 ・世界中の都市を舞台に、価値ある都市生活の創造に向けて国際社会で活躍したいと望む実践的な人 <p>【高校での学習について】 都市生活学部での学修を無理なく進めるために、高等学校の次の科目を履修していることが望まれる。 (入学試験のタイプで受験科目は異なる。また、国際化対応のために英語力の研鑽などが望まれる)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語 (コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ) ・国語 (国語総合) ・地歴 (世界史A、日本史A、地理A、世界史B、日本史B、地理Bの中から2科目以上) ・数学 (数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B)
--

<p>学部等名 人間科学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p>
<p>(概要) いのちを大切に、平和と環境を保持し、人類の持続可能な発展をもたらすため、「保育・教育」「発達・心理」「文化」「保健・福祉」「環境」について総合的に理解し、その向上に貢献できる豊かな感性としなやかな知性を具えた高い専門性を持つ自立する人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p>
<p>(概要) 所定の年限在学し、以下の能力とともに所定の単位数を修得した者に、学士（児童学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人間性に根差した学際的教養と、「知」の基盤となる横断的基礎知識、児童の教育・保育および子育て支援の分野に関する専門的知識や技術を修得している。 2. 「体験型プログラム」を通して、豊かな自己表現力とコミュニケーション力を身に付け、「理論」と「実践」を総合的に応用することができる。 3. 児童学分野における真理探究のための主体的な学びから、柔軟な思考力、課題探究能力および問題解決力を修得している。 4. グローバルな視点から物事を考え、現代的課題に対応しうる倫理観および社会的責任を修得している。

教育課程の編成及び実施に関する方針
(公表方法：インターネットにより公表 <https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>)

(概要)

人間科学部では、児童学科を置き、以下の方針に基づき教育課程を編成する。

1. 基礎的知識と基本的学習能力を獲得し、人間性の基盤となる豊かな教養を培うために、幅広い科目を設置する。
2. 基礎ゼミ、特別研究、卒業研究などの少人数制の科目を通して、主体的に学ぶ姿勢を育成し、専門性を高めることを目指す。その中で、柔軟な思考力、問題解決力、自己表現力、コミュニケーション力などを培う。
3. 幼稚園教諭一種、保育士資格取得に必要な科目とともに、知識に偏重しない「体験型プログラム」を提供し、将来の保育者としての保育力・実践力を高める。
4. 「海外研修」「インターンシップ」「ボランティア」などの科目を通して、現代社会の多様な課題に取り組み、国際的な視点をもって探究する力を養う。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：インターネットにより公表 <https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>)

(概要)

【人材の養成及び教育研究上の目的】

人間科学部では、「保育・教育」「発達・心理」「文化」「保健・福祉」「環境」について総合的に理解し、その向上に貢献できる豊かな感性としなやかな知性を具えた高い専門性を持つ自立する人材の養成を目指している。

【求める人物像】

- ・子どもと子どもに関わる大人について学ぶ意欲の高い人
- ・大学で学ぶための基礎学力がある人
- ・自律心があり、人と協力しながら積極的に行動できる人
- ・目的に向かって困難を乗り越え努力しようとする強い意思を持つ人

【高校での学習について】

人間科学部での学修を無理なく進めるために、文系科目はもとより、理系科目も含めた幅広い基礎的知識の学習が必要である。特に国際的な観点からも外国語の能力が求められる。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：インターネットにより公表
<https://www.tcu.ac.jp/guidance/configuration/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
工学部	—	54人	42人	15人	1人	0人	112人
知識工学部	—	19人	7人	13人	0人	1人	40人
環境学部	—	10人	11人	0人	0人	0人	21人
メディア情報学部	—	15人	6人	0人	0人	0人	21人
都市生活学部	—	8人	6人	5人	0人	0人	19人
人間科学部	—	7人	7人	1人	0人	0人	15人
教養部（一般教育）	—	15人	13人	14人	0人	1人	43人
附置研究所	—	6人	1人	0人	0人	0人	7人
その他	—	2人	3人	2人	0人	0人	7人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		309人					309人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：インターネットにより公表 http://www.risys.gl.tcu.ac.jp/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	780人	803人	102%	2,860人	3,037人	106%	若干名	3人
知識工学部	240人	242人	100%	1,085人	1,227人	113%	若干名	1人
環境学部	160人	167人	104%	640人	685人	107%	若干名	2人
メディア情報学部	180人	213人	118%	720人	825人	114%	若干名	0人
環境情報学部	人	人	%	人	1人	%	人	0人
都市生活学部	160人	166人	103%	630人	694人	110%	若干名	2人
人間科学部	100人	108人	108%	400人	417人	104%	若干名	0人
合計	1,620人	1,699人	104%	6,335人	6,886人	108%	若干名	8人
(備考) ・環境情報学部 2013年募集停止 ・編入学については、定員に余裕がある場合のみ募集 ・編入学者数は学校基本調査「学部学生内訳票」数値を転記								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	695人 (100%)	198人 (28.5%)	474人 (68.2%)	23人 (3.3%)
知識工学部	262人 (100%)	51人 (19.5%)	203人 (77.5%)	8人 (3.1%)
環境情報学部	4人 (100%)	0人 (0.0%)	2人 (50.0%)	2人 (50.0%)
環境学部	156人 (100%)	9人 (5.8%)	138人 (88.5%)	9人 (5.8%)
メディア情報学部	166人 (100%)	2人 (1.2%)	156人 (94.0%)	8人 (4.8%)
都市生活学部	166人 (100%)	11人 (6.6%)	151人 (91.0%)	4人 (2.4%)
人間科学部	101人 (100%)	0人 (0.0%)	100人 (99.0%)	1人 (1.0%)
合計	1,550人 (100%)	271人 (17.5%)	1,224人 (79.0%)	55人 (3.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	745人 (100%)	625人 (83.9%)	71人 (9.5%)	49人 (6.6%)	0人 (0%)
知識工学部	280人 (100%)	231人 (82.5%)	34人 (12.1%)	15人 (5.4%)	0人 (0%)
環境学部	175人 (100%)	141人 (80.6%)	21人 (12.0%)	13人 (7.4%)	0人 (0%)
メディア情報学部	193人 (100%)	152人 (78.8%)	23人 (11.9%)	18人 (9.3%)	0人 (0%)
都市生活学部	177人 (100%)	156人 (88.1%)	15人 (8.5%)	6人 (3.4%)	0人 (0%)
人間科学部	103人 (100%)	98人 (95.1%)	4人 (3.9%)	1人 (1.0%)	0人 (0%)
合計	1,673人 (100%)	1,403人 (83.9%)	168人 (10.0%)	102人 (6.1%)	0人 (0.0%)
(備考)					
進路変更や経済的困窮による中途退学者数が多い。					
(転籍状況)					
工学部→都市生活学部 1名 中途退学					
知識工学部→環境学部 1名 留年					
環境学部→工学部 1名 留年					
メディア情報学部→工学部 1名 留年					
メディア情報学部→都市生活学部 1名 卒業					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>前年度中に科目担当者がシラバスを作成する。その後、科目担当者以外の第三者が、記載内容が適正であるかをチェックした上で、前年度の3月31日までにシラバスを予めインターネットにより公表している。</p> <p>https://www.tcu.ac.jp/academics/syllabus/ (※「シラバスメニュー」より検索、ID・パスワード不要)</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>【学修の成果に係る評価】</p> <p>成績評価の基準は100点満点法で、59点以下が「不可」、60～69点が「可」、70～79点が「良」、80～89点が「優」、90～100点が「秀」と定めている。</p> <p>なお、これらは全学生に配付している学修要覧の履修要綱において定めており、インターネットにおいても公表している。</p> <p>https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/</p> <p>【卒業又は修了の認定に当たっての基準】</p> <p>本学を卒業するためには4年以上在学して、学則に規定する卒業要件を満たさなければならない</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	機械工学科	124単位	○・無	24単位
	機械システム工学科	124単位	○・無	24単位
	電気電子通信工学科	124単位	○・無	24単位
	医用工学科	124単位	○・無	24単位
	エネルギー化学科	124単位	○・無	24単位
	原子力安全工学科	124単位	○・無	24単位
	建築学科	124単位	○・無	24単位
知識工学部	都市工学科	124単位	○・無	24単位
	情報科学科	124単位	○・無	24単位
	情報通信工学科	124単位	○・無	24単位
	知能情報工学科	124単位	○・無	24単位
環境学部	自然科学科	124単位	○・無	24単位
	環境創生学科	124単位	○・無	24単位
メディア情報学部	環境経営システム学科	124単位	○・無	24単位
	社会メディア学科	124単位	○・無	24単位
都市生活学部	情報システム学科	124単位	○・無	24単位
	都市生活学科	124単位	○・無	24単位
人間科学部	児童学科	124単位	○・無	24単位

G P Aの活用状況（任意記載事項）	公表方法： インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/efforts/effort_2/
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）	公表方法： インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページによる公表 / <https://www.tcu.ac.jp/facilities/>
刊行物による公表 / 「大学案内 2019（7,000部発行）」をキャンパス内に設置するとともに、各種イベントでも配布している。また本学ホームページ上でも公開している。
<https://www.tcu.ac.jp/tcucms/wp-content/uploads/2019/03/book2019.pdf>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
工学部/知 識工学部	医用工学 科以外の 全学科	1,380,000円	240,000円	0円	
	医用工学 科	1,380,000円	240,000円	40,000円	実習費
環境学部/ メディア情報 学部	全学科	1,250,000円	240,000円	0円	
都市生活 学部/人間 科学部	全学科	1,130,000円	240,000円	0円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 自ら学ぶ意欲と、確実な専門力と人間力を兼ね備えた学生を育てるために、学生の主体性を培う教育内容・方法、学びの拠点となる施設の整備、TA・SAなどの教育サポート体制の充実など、大学全体で主体的な学びを促進している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) 就職の環境に左右されることなく、学生が低学年から本質的な学びに対するモチベーションを向上させ、社会で通用する力を高める支援を目指しており、以下のような取組みを行っている。 ①キャリアデザイン講座の開設、②キャリア情報記録システムの導入、③キャリアアセスメントツールによる自己理解、④キャリア相談体制の確立、⑤国内外インターンシップの推進。これらにより、単に就職するための支援に留まらず、大学卒業後も、自ら学び続け、能力を高めていける学生を一人でも多く社会に送り出すよう努めている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

医務室の開設。医師（定期的に来室）や養護職員（常時勤務）が、学生の心身の健康を保持、増進していくために必要な知識の提供や相談を受けたり、簡単な処置等を実施。ベッドや身長体重計、視力測定器、血圧計などの測定機器も設備。毎年4月に学生定例健康診断を実施している。

「学生相談室」の設置。学生が大学生活を送っていく中で生じる悩みや疑問など、どんな事柄についても専門の相談員（カウンセラー）が親身になって話を聴き、共に考えて、学生が自ら問題の解決ができるよう支援している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：上記①～⑨について、インターネットにより公表

- ①<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>
- ②<https://www.tcu.ac.jp/guidance/configuration/>
- ③<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>
<http://www.risys.gl.tcu.ac.jp/>
- ④<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>
- ⑤<https://www.tcu.ac.jp/academics/syllabus/>
- ⑥<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>
https://www.tcu.ac.jp/guidance/efforts/effort_2/
- ⑦<https://www.tcu.ac.jp/facilities/>
<https://www.tcu.ac.jp/tcucms/wp-content/uploads/2019/03/book2019.pdf>
- ⑧<https://www.tcu.ac.jp/entrance/expenses/>
- ⑨<https://www.tcu.ac.jp/guidance/efforts/>
<https://www.tcu.ac.jp/recruiting/>
<https://www.tcu.ac.jp/campuslife/support/consultation/>